



中村俊定文庫
文庫 18
56



貞澹百句

自獨
註吟

貞
德
百
句
自
獨
註
吟

甲村俊定文庫

貞徳百句 獨吟

貞徳藏

貞徳

夢想

御

小別乃子年はおよ朽せぬ

八朔の東もれに入たのりさ嘉
陽くは一日をたのむの朔月と世談
回答のせしれより

貞徳

黄もこの松行やみふ金るらん

酒味の小い天の久みふ金さき紫は
秋も松をのみらむとよあり

賀乃是也 志乃たま

祝言の度へりそとら墨の物え
病ハ病と云

目をなやふ光ありけり月の夜
墨と墨よつけり侍る

あつた遊よるそと天
おひら波のやま候へ天人の下
まよひとてふあり

うに往居あふれとして樂るれ
一方の海をのさそふ付ん天
去のつまありて久遠あはるん
物とてと候い用んせり

世話あまひんらとつへい

旅衣さよまあいつてゆくらよ
旅衣の神そあとのまはる

あつれやち日ろふ養
付ん白面の面おとらあまは
りろまおあり

ウホウライ
蓬草乃ち守つ仕合のくめて

おれあまるを隠れれとよ付る
大さりをと入まへは
大さりをと入まへは

重箱の下へる人とのそり

大さんときらねよ入亭よりよか
者のこころあきりし

野りも乃極山住そいやり
下と下人なまあり

あみていおを物とあか
りけのあまのうらこもあま

てき乃ら座へかゝる
たの草とらまらりあに

島去ハ後そやらねい目端

いさこのあ入と境目のあ入と
さる之款ハ海のてたは丸のく

いまばだらちしはくろ海中

地のまひめと賽よらるる
のまあり

菜とらちけとあてな力町

菜の糸よ豆腐とこまうよ切ま
しんらとまらちけとちとら

ありはちあはつららわあひ

井筒と子信よあつりハ

とこまらとちけとあまの
滑まのれ甲のくさけあまの

く人乃志ぬのあハ

チウツ
あまをわつしはてはらん
打越の名りり葉とらふ字ありま
よりてわつし不苦の一名のま
あまのこ白よりとらふてはけ
しきしきし

下女乃おむむと泣きりん月
はわつし月あるよりてサるりら
アおまのわつしのあつりま
洗あしけらるる又乳のあま
てらりはけらるるまよりりけ
これらりけらるるはるの月あ
て不女をれはこあつりりて

そのまゝと物之世念

花むしる冬枝をわつしおま
下女りよりはつりりねとあつり
しとておむむし

鶏ケイ乃ノくはコハは朝乃あま
けららんは月えはのあまをらま
くひて曉りりおまをらあまは

二
常ツネはあまなつりり根ああれお
常ツネはあまなつりり根ああれお
ありあのすあり

むあつりりあまなつりりあつりり
わつりりあつりりあつりり

船は中ねあゝぬ偶河
今此のその能くまらぬあるを
やうんちやうけうりや新来の人
よつらふんば川のなまなまに
葉まのなまぬあるし
漢のまはなまのしやま

日ごとくぬやうこと
これに修業抽換はありひの事
方とならぬこと
やうかあるまはなまのしやま
まはなまのしやま

あつ詞ととりて付はる一万の
ハ旅ののるまはなまのしやま
いらん神ある

あひせよひろき地とれる
まのま尺算甲ある破る
まのま尺算甲ある破る

ふまんなきりくはなまの中
ぬりあひせよひろき地とれる

打もつて格やみふ縄なむ
縄をまつて格ありくはなまの中
とらふり付はる

つしやうしてまらふんを蘇

橋のつらさよと付繩はらよまの
ゆの音も又吹あつるは風は
うらまゝの音の名もは松と雲よれ
あえは風よふそのう草なあり

列子^{リッシ}あつは月よまてめく

若く月の音はあたたまのはよふ
はあり列子の風よのりよまて

してつとぬおぬれつを晴て
これに人ありつら海と鳥の中
よあまおあつらよまてつらつ相
あつらつらつらつらつらつらつ

天よまてつらつらつらつらつ

一乃谷つらつらつらつらつ
はの名をてつらつらつらつらつ
麻がこ居てあつらつらつらつ

こめやよつらつらつらつらつ
お官のうんぶつらつらつらつらつ
おつらつ

太鼓をうらつらつらつらつ
軍隊のそのつらつらつらつらつ
つらつらつらつらつらつらつ

申樂^{ニウ}つらつらつらつらつらつ

ついでに...
三平
...
...
...

志らぬ言はれは丹波
丹波さかめらるる時
申樂りよむさひ...
志らぬ初めらるるあり

わづら生野の布は...
この丹波あり布とあり布
一のころとつ六考あり
これありはとさひて...

さう代夜もやあまのつら米
布のこのまてりぬ...
とりのつらとち米あまの...
りん...しとらあら米あり

ほたう...
...
やせ...
付...
...

猿エニカ...
人のよと猿...
...

ふきつゝあけきかてあさの
な月の旁よりくたさるる月
とわらうはまを我あり

ゆきとふきかたふくしと落
きかを桐よりあしけり井の
けりうは桐はゆきあり

なまをあつと茶屋のめわ
井とちやんとうをん

^{井カ}豆房ふあやうの境
やまをうは陰はあつをけ

備あ服治こそみやあゆれ
あ宮のめわこのみやうぶせ
豆房はあやあつとみや
あは教河はあつ

雑乃なまのたよ母は
こよらゆらるる雑梅あはあ
うらふあの花よらうああり
むつしと花のよらるるは
ふしとあつとあ

かつとすしと教あはああ
春

つらの花より又まきやの
の花よりつらゆき

三

たちつゆもあまなる踏^{タビ}はのりも

しちつげい^{カクシヤウガク}物^{モノ}は夜^ヨまじむをわく

しちつげい^{カクシヤウガク}入^イふあまへ一日^{イチニチ}もあ

しちつげいの^{ヒモ}純^{ジュン}とまきあまへ

あつひのまら清^{スガ}あつひ

つらひのまら清^{スガ}あつひ

つらひのまら清^{スガ}あつひ

せむかなはなふおと下^{シタ}

たあつひのまら清^{スガ}あつひ

軍^{イクサ}のまら清^{スガ}あつひ

時^{トキ}とあつひのまら清^{スガ}あつひ

あつひのまら清^{スガ}あつひ

あつひのまら清^{スガ}あつひ

甲^{カウ}まのまら清^{スガ}あつひ

と疾^{ハヤ}速^{スベ}のまら清^{スガ}あつひ

あつひのまら清^{スガ}あつひ

あつひのまら清^{スガ}あつひ

あつひのまら清^{スガ}あつひ

あつひのまら清^{スガ}あつひ

たのむと申すにあらざらん
ありとありありとけり百白とあり
付るるよりありとありとあり
物との伊勢物納るるの古事
百句と一度ありてありとあり
已に新式目録源氏物語は大成
の物語とありとありとありと
あれは源氏物語とありとありと伊
勢物語とありとありとありとあり
歌歌とありとありとありとありと
此つこのる角田川のる又とあり

ありとありとありとありとありと
とありとありとありとありとありと
のまゝとありとありとありとありと
人多くありとありとありとありと

ありとありとありとありとありと
ありとありとありとありとありと
ありとありとありとありとありと
ありとありとありとありとありと
ありとありとありとありとありと

ありとありとありとありとありと
ありとありとありとありとありと
ありとありとありとありとありと
ありとありとありとありとありと
ありとありとありとありとありと

蛭アゲハ蠅ハエとらふもあつたか
いふいふる海あり大はと多
とらふある

皇天の神をたふす

大はと多

あつたか

はつたか

あつたか

神乃孫カミノムス

あつたか

神あり

一は孫とらふ

り難法あり

はつたか

あつたか

あつたか

雷ライとあせり

志の地

あつたか

南橋月ミナシマツキ下カ持モ寒サムイ衣カミとらふ

てとり合アヒせ

三ウ
はつたか

とまきの蛇と庭洲御集よりんを
うりむりく 薩武、胡、あまら
し時僕の妻、衣とらして
結より旅人とまつる衣
うりむりくと連、あひの付合
らむとひよまらるる

は鳥羽院ととらよ世の中
羊久のころは帝のふら流
飛ありーよより海、院と
やちるあり

ありーるよ、あまら、新、奏

は集、あひ、あまら、あり

の、あまら、あまら、あり

は、あまら、あまら

みよ、あまら、あまら、あり

あまら、あまら

たこの浦よりあまら、あまら、あり

あまら、あまら

あまら、あまら、あまら、あり

は集券一の名をいふ云々

泥^{天不}強^工を志^工河^工あづ^工戸^工下^工る^工

船^工は^工あ^工ら^工の^工より^工そ^工用^工東^工

め^工下^工さ^工る^工亦^工を^工信^工ふ^工ま^工さ^工る^工

ら^工く^工さ^工す^工く^工た^工は^工泥^工強^工と^工つ

け^工ら^工ち

せん^工れ^工巻^工乃^工表^工紙^工は^工あ^工ま^工

去^工り^工く^工津^工乃^工表^工紙^工の^工少^工方^工集^工券

と^工して^工信^工氏^工抽^工換^工紙^工が^工さ^工り^工し^工や

阿^工ら^工く^工と^工ち^工を^工表^工紙^工の^工泥^工強^工の

あ^工ら^工く^工い^工あり

親^工者^工乃^工信^工氏^工は^工あ^工ら^工く^工あ^工り^工

これ^工ら^工く^工の^工あ^工ら^工く^工い^工あり

信^工氏^工の^工あ^工ら^工く^工い^工あり

秋^工乃^工本^工集^工券^工と^工あ^工ら^工く^工い^工あり

信^工氏^工の^工あ^工ら^工く^工い^工あり

れ^工は^工信^工氏^工の^工あ^工ら^工く^工い^工あり

あ^工ら^工く^工い^工あり

あ^工ら^工く^工い^工あり

あ^工ら^工く^工い^工あり

小^工田^工乃^工か^工ら^工く^工い^工あり

あ^工ら^工く^工い^工あり

て多敷トリケでおもひありうを我
ささきてよし

ささくせいの眼ナ旁ナえれて
ねえよさんうり二つ二つ自作自作を
つあそとあちて付付ゆる

八のみさきく神ナにおそる
神ナのほみや中ナは後ナもま
りの八乃八乃西母西母とありたてき
ささくせいの

ひるさかり花ナみちがけいあひら
ささくせいの八つ八つあり神ナは

こありと取ああり

夕ナきめひいまナうむい
電ナえ夕ナきナまナるナぬナ

名堀川堀川のうナんナまナひナ記ナ新ナ嘉
あさうととと夕ナきナあり
夕ナきナひナまナのありひナま
とナいナふナ京ナの堀川堀川あり
あさうととと夕ナきナありたの松
堀川堀川新ナ嘉あり

仇ナあナくナあナやナあナへナあナつナん
右射ナの死ナくナとナあナへナ堀ナ中

あり葬禮サウをさるしんさるり
かうさん一つ傍とあらん
敵カウかうさんしてはた敵一
て死人ととりあへずあり

おろりゆるるる意と量たまで
太平記よる御事と云そのま

こみみ一敵の代とてあわれ
敵カウの討ウチまう御礼とてせと

しあひしあひ

今たうはうとてあてすんは
敵カウの字と云事よれあて付る

東あくとしぬのり瓜らわ

東者瓜ウをたね玄ノのた京
とつあもあつたあとしと大
名ナ夜ヤととつらそあ一より

みお判とてあゆみありらる
さうあさこころをたて天下あま
ねく知るるものい他世のま用之

冬フユ日ヒあ延ノボるや悦エツキ喜キまの
里

あさであつたまよりあま冬
より日ヒ神カミ女メの傍ハナ績ニと御ミコ筋スネ
よりあまをわとあつたなを

あり古あり

山城の山はつららの瓦つら
とありくありなりさうま
こま瓦の名もあり

さうたる春は月の夜は樂カク

樂はこまのこまのこまのこま
を木のりもとりるはあり

まぢらうくは樂の用この意
はありこまのこまのこま

りの長をえれこまのこま

波ははる島居そすむいカク

樂と額カクはるそあり額のさ

また波のありこまのこまの
境はは波の中はまのこま

平氏乃むりのさうありし

平氏の氏神あるは清の
威せさうと思ひこまのこま

保え乃時の花みふ教こそ

平氏と年号の平治よまの
あり保えの乱は平治の世
あつこまのこまのこま

之位乃宿の文風そあつ

保えと法根よまのこまの位

は根とりあり

三君各為民をよるこありぬ

さいものこの字りつものこは
氏のところ字の上とこ付か
たれぬこくくくくくく
古風ゆく物あり

田はく志願してよるこあり

うんたのけ稲くおれてや
くくく喜雨やうてとれあ
る神あり

おれきやかのきやくんあひ
ねん

猿麻たうひて伝うあり

阿こと春日中たり小秋

猿ハあこのは志麻ハまの
は志ありその戦とんそ格

現と物神とらあ不舎あり
強ありここといさうさう乃
志中猿よりとらありま
さありまははまはははは
志志くは大法くハよ

山乃大師を川おるここと
白とあまの志りくそ

傳教の才の法大師一人と
川は流れゆるる末は白
いとるまきと新くくま
患^{ゲチ}瘧のふありとて
傳教大師法^{ラカ}隆^{タカ}
慈^ジ覺^{カク}大師ハ鼻^{ハナ}そありま
ありはことりたはさやの
るは傳記初^{ハツ}は川あり
るは^ハ不^フ言^{ゴン}人の一^{イチ}部^ブは
けつまはくもあまあり
るはあり物ありそれあり
獨^{ドク}て死^シるありはさるに
ありはありあり

魔乃^{マノ}まにらや野^ノあり
あま^{アマ}のまの野^ノあり
ふありまらふは^ハあり
そありあり

あはれみとらんてらとら
のまらけりまらあり
これとらんてらとらあり
つありまらあり

盃^{キヨ}乃^ノ盃^カはありあり

古今のあはれなきまむめの
あつた足て

伊勢

わしとて花のうみをみる
ちりかゝるをわらうといふ人

た^たん乃^のつ^つり^りふ^ふも^もる^る風

さうら^らま^まを^をいた^た足^のの^のぬ^ぬり^りを
は^はる^るゆ^ゆへ^へあり

肉と清独吟乃り〜
りり作^つ草^のの百句^{あり}
とせは紙^をけ^きた^た紙^を折^る枝
足^てす^すり^り再^再独^独吟^吟を^を色^色〜

獨吟^はあ^あり^り〜
百^百々^々な^なり^りと^とお^お目^目と^とあ^ある

先^先心^心は^は相^相を^を詩^詩入^入〜
百^百句^句も^も十^十百^百句^句〜
層^層々^々〜[〜]人^人物^物は

百^百々^々の^の詩^詩念^念〜
列^列の^の羨^羨想^想〜
さ^さる^る方^方は^は作^作題^題〜

日経い〜とてふりせよ
はねあのみり

小列の千よるん〜
この南瞻乃百代と之つ

る刻
貞徳

中川重治雅文
贈答

右獨吟之百句并自註貞徳翁
求正筆一字不差書白字之令板
行而已爾云時

万治二年己亥
仲秋中旬 野田氏基春新刊

ト

貞徳

卷之五

